

こ だ いせきしゅうへんいったい いこう いぶつ
平成元年度には、小田遺跡周辺一帯の遺構や遺物の
ほぞんじょうたい はくつちょうさ
保存状態を調べるために発掘調査を行いました。

じょうもんじだいばんき
昭和 53 年度の調査では、大量の縄文時代晩期（3,000
～ 2,300 年前）の土器や土偶などが発見されていたため、
この調査でも多くの遺物が出土するものと期待されま
したが、少ないものでした。

じんぶつせんこくせき じんぶつぞう きざ
しかし、「人物線刻石」といわれる人物像を刻んだ
石が発見され、全国初の縄文人による絵画として注目
されました。

この石の大きさは、縦 3.2 cm × 横 2.6 cm × 厚さ 0.5 cm で、
じんぶつぞう えがら か
片面に人物像と思われる絵柄が頭部から足先まで描か
れており、裏面には 2 本の平行する曲線によって文様
きよくせん もんよう
が描かれていました。

縄文時代には人物画がないという説が一般的でした
が、その定説を覆す
ていせつ くつがえ
大発見となりました。



人物線刻石が発見された調査部分
(平成元年度調査)